

平成27年度 世界農業遺産小学生作文コンクール 入選作品集



○最優秀賞

豊後高田市立田染小学校 都甲悠翔 「田染の自然をいつまでも守りたい」

○優 秀 賞

宇佐市立長洲小学校 堀本海斗 「農業は天地人」

国東市立国東小学校 今富紗来 「はばたけ！世界中へ七島藺」

○入 選

豊後高田市立呉崎小学校 池本夏菜 「体験をして思ったこと」

国東市立国東小学校 宮崎媛花 「国東半島宇佐地域の『すげえ』」

杵築市立大田小学校 河野朱里 「ふるさと大田」

国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会



国東半島宇佐地域世界農業遺産 Kunisaki Peninsula Usa GIAHS

○最優秀賞 「田染の自然をいつまでも守りたい」

豊後高田市立田染小学校 6年 都甲悠翔

ぼくはカブトムシやクワガタが好きだ。カブトムシが昆虫の王者のまま、角も体も大きいままでいて欲しいと思っている。しかし、最近おかしなカブトムシが発見されているようだ。

『カブトムシ山に帰る』によると、おかしなカブトムシの特徴は二つある。一つ目は、カブトムシが小型化してきていることだ。小型化したカブトムシを「豆っこカブトムシ」というようだ。雑木林がにぎやかだったころのカブトムシは大きく立派だった。最近になって「豆っこカブトムシ」が多く見られるようになったようだ。二つ目は、くち木の中からカブトムシの幼虫が出てきたことだ。カブトムシの幼虫は、腐葉土などの中において、くち木には見られないはずだった。

ぼくは、どうしてカブトムシが小型化し、くち木の中に見られるようになったのか、とても疑問に思った。調べてみると、その答えはカブトムシの住むところの環境の変化だとわかった。もともと山で生活していたカブトムシは、人間が手を加えた里山の雑木林に住むようになった。伐採された木からはカブトムシの大好きな蜜が出だし、雑木林の土は山の土より快適だったため、カブトムシは生活しやすい雑木林で大型化したようだ。今、里山の雑木林は人が木を伐採する必要がなくなった。それは昔、木を伐採して炭を焼いたり、お風呂を沸かしたり、ご飯をつくったりしていたと父から聞いた。人々の生活が変化し、木を伐採しなくても暮らせるようになったからだ。そのため里山の雑木林には、カブトムシたちのエサが不足し、もともと住んでいた山へ帰るしかなくなっているのだ。人が山里の雑木林に手を加えないとカブトムシの小型化が止まらない。ぼくの大好きな昆虫の王者のカブトムシがこのままではいなくなってしまうかもしれない。人が手を加えないといけない自然があることを初めて知った。

今年の夏、史跡・文化財探訪に参加した。ぼくの住む田染地区の田染荘が探訪のコースに入っていた。田染荘は千三百年くらい前の景観を残し、世界農業遺産にも認定された場所の一つだ。ぼくは田染荘を昔の姿のまま残すために、時代や世代をこえて多くの人に関わり、手を加えながら今に至っていることや、この景観を残したいと熱い思いを持っている人たちがいることをあらためて知った。里山の雑木林の姿を取り戻し、昆虫の王者のカブトムシを増やすためには、田染荘と同じように多くの人に関わり、熱意を持ち続けることが大切だと考えた。そのためには、田染の行事に積極的に参加し、田染のことをもっと深く知って好きになることが大切だ。また、田染の自然を多くの人に伝える必要がある。田染の自然の大切さを伝えることで、自然を守る仲間を増やせるはずだから。そして昆虫の王者だけではなく、他の生き物も安心して住める田染の自然を守っていきたい。

○優 秀 賞 「農業は天地人」

宇佐市立長洲小学校 6年 堀本海斗

「世界農業遺産に、国東半島と宇佐地域になったんだよ」と、先生から聞いたとき、ぼくはなんの事だろうと思いました。

ぼくが住んでいる長洲は、農業というよりは漁業の町という印象でした。しかし、考えてみれば、三年生の時に大豆、五年生の時にもち米作りを体験しており、宇佐も確かに農業が盛んなのかもしれないと思いました。

二学期になって、大分県中部振興局に勤められている永元さんが世界農業遺産についての話をしに来てくださることになりました。

ぼくは「木が食料を産む」という漫画で描かれた世界農業遺産の本を読み、大分県は乾シイタケの生産が日本に一であることや、国東半島だけでも農業に大切なため池が千二百もあることを知り、びっくりしました。

そして、その本の中に大分県の宇佐市と日出町、杵築市、豊後高田市、国東市、姫島村の六つの市町村がすべて循環システムに関わっていることを知りました。この循環システムという言葉が世界農業遺産になったキーワードであることが少しずつ分かってきました。

永元さんは、ぼくたち長洲っ子の先輩で、学校のすぐ近くに住んでいる方でした。

永元さんのお話の中で、農業は「天地人」という言葉が出てきました。これは、天は気候、地は水や土、人は人間の技術や生産や加工、そして消費という意味です。人間が手をかけて自然と向き合い農業をすることで、その環境が守られているということだそうです。例えば、ぼくの住んでいる長洲にある田は、夏場は米、冬場は麦という景色が当たり前のようにあります。しかし、このことは全世界的にみてもとても貴重なことだそうです、これも人が手をかけて、この循環がくずれないように今まで育ててきたものだとことを知り、ぼくは一学期に読んだ『カブトムシ山に帰る』の事を思い出しました。

その本の中には、「人間が豊かな里山を作っていたから、カブトムシは体を大きくすることができた。しかし、今、人の手が入らなくなった森や林が増えてきたので、栄養が摂れず、さらに奥の山に住むようになり、体が小さくなった。」と書いてありました。

ぼくは、それまで人間が手を加えることで、自然を破壊しているのではないだろうかと思っていましたが、永元さんのお話を聞いたり、いろいろな本を読んだりする中で、農業がこの循環を守っているんだと思うようになりました。

宇佐市には、広瀬井路や、今、再び復活しつつある酒米「雄町」や、二毛作など農業を続けていかなければ守れない農業遺産がたくさんあります。日本ではわずか五ヶ所しかない世界農業遺産の場所として、これからも、宇佐市の農業について学んでいきたいと思います。

○優秀賞 「はばたけ！世界中へ七島藺」

国東市立国東小学校 6年 今富紗来

私の住む地元、国東は、地域の人たちが笑顔になるような新しい発見がたくさんあります。また、多様な自然や古い文化もあります。だから、国東半島宇佐地域は世界農業遺産に認定されたんだと思います。これから、私の住んでいる国東について、私が思ったことを紹介していきます。

まず、私が注目したものは七島藺です。わけは、六年生の一学期、国語の授業で「森林のはたらきと健康」という説明文を読み、世界農業遺産について調べたことがきっかけになったからです。七島藺は、通常の家で使われている藺草よりも二倍以上もの耐焦性もあることにおどろきました。だから、七島藺はこのことを活かして国指定史跡や京都のお寺にも使用されているんだなと思いました。

私が体験したのは、ある日、おばあちゃんの家に行ったときのことで。畳が前のものよりも新しいものになっていました。私はびっくりしておばあちゃんに「これ、なんの草で作ってるの？」と聞いてみました。すると「七島藺で、六畳一面で数十万円もしたんで。」と言っていました。七島藺はとてもいい香りがしました。におっていると気分が落ちついたりもしました。まるで、自分が美しい草原にいるような感じでした。これからも、ここだけしかないものを大切にしていきたいと思いました。

また、大分空港にはキッズコーナーがあります。そこでは、七島藺で作られた『すべりだい』があります。これは、私のお父さんが作ったそうです。この事をまだ知らなかった時に、そこへ行った私は、国東地域のいい所をアピールしていて「いいな！これなら他の県や国の人達が、まだ知らない事を体験できて、いい思い出になるんじゃないかな？」と思いました。私の妹や他の地域から来た子供達が楽しそうにはしゃいでいました。そこにいた親たちも、楽しそうに遊んでいる子供達をニコニコしながら見ていました。これを見て、七島藺は人を笑顔にする力があるんだなと思いました。きっと、お父さんはちょっとでもみんなが笑顔で嬉しくなるようにと、考えながら作ったんだなとも思いました。

このように、普段の身の回りの出来事が、どれだけ大切なことなのかが良くわかりました。だから、七島藺の大切さが世界中に広まるように、将来、私も工芸品などを作りたいと思いました。そのためには、ふるさとの良さを大事にし、自然豊かな国東をいつまでも残していけるよう伝える人になりたいです。

○入 選 「体験をして思ったこと」

豊後高田市立呉崎小学校 6年 池本夏菜

私は、国東半島宇佐地域世界農業遺産についての本を読みました。私が心に残ったところは、クヌギ林の循環とシイタケ栽培のところと、ため池がもたらす水の循環のところとです。クヌギ林の循環とシイタケ栽培では、木を伐採しても切り株から萌芽するクヌギをシイタケ栽培に使い、自然をこわさないところが心に残りました。ため池がもたらす水の循環では、農作物を育てるために、ため池の水を使い、水という資源を大切にしているところです。他にも、国東半島にはたくさんのいいところがあり、それが世界に認められたと感じると、とても素晴らしいことだなと思いました。

私が通っている学校のある呉崎は、ネギが特産物であり全国的にも有名です。なぜネギが特産物かということ、呉崎は干拓地で海水を含んでいる土と潮風にも負けない野菜は少なく、その中でネギが栽培されるようになったのです。

私たちの学校、呉崎小学校は、毎年三、四、五年生が、ネギ農家の方々に教えていただきながらネギを育てます。毎朝学校に来て水やりをしたり草を取ったり、月に二～三回の頻度で盛り土をしたりしてネギを育てました。大変な作業でしたが、収穫して地域の方々から「よくできたね。」とほめられるとうれしかったです。

私の母は、夏になるとブドウを育てる仕事をします。毎日、ハウスの開け閉めをしたり、ブドウを間引いたりして、こしが痛いと言っていました。ネギだけではなく、ブドウを育てるのも大変なんだなあと思いました。また、ブドウを出荷する時は、ブドウの出来が悪いという言葉が口にしていたので、農業をするのは、とても難しいことなんだなあと感じました。

呉崎は、毎年秋に産土神社でお祭りがあります。作物の豊作を祝うお祭りで、干拓ができた日に近い土曜日、日曜日に行われます。お祭りでは、子供がみこしをかついだり、旗を持ったり、太こをたたいたりしながら、呉崎地区を歩きます。これが二日間行われます。

私はこうした行事に参加することで、少しでも国東半島の文化を守っていくことにつながるのではないかと考えました。なので、積極的に行事に参加し、文化や自然を守っていきたいです。

○入 選 「国東半島宇佐地域の『すげえ』」

国東市立国東小学校 6年 宮崎媛花

『世界農業遺産』と初めて聞いた時、私は『何だ、それ』と思いました。しかし調べていくうちに、国東半島宇佐地域の『すげえ』と思える所がたくさん見つかってきました。

まず、私は国東半島宇佐地域の世界農業遺産に認定された所を自分なりに考えてみました。最初はシイタケくらいしか頭にうかびませんでした。他に『すげえ』と思える所はあるのかなと思いました。でも、世界農業遺産のパンフレットには国東半島宇佐地域の『すげえ』所がたくさん書いていました。

私がその中で『すげえ』と思えた所は四つあります。

一つ目は、ため池についてです。私はこの前、ため池を見に行きました。思った以上に大きかったのでびっくりしました。そして、ため池は国東半島に約千二百箇所もあるそうです。そして、そのため池は全部つながっているそうです。ため池は、約三百年前に手作業で作られたそうです。大きなため池を人間の手でつくるのは、とても大変なんだろうなと思いました。その大変な作業をあきらめなかったことを『すげえ』と思いました。

二つ目の『すげえ』と思ったところは、クヌギ林です。クヌギ林の木は伐採しても、切り株から萌芽して再生するそうです。そして、そのクヌギの木で大分県が日本一生産しているシイタケの栽培が行われているそうです。クヌギの木は伐採しても再生するので、木材資源が循環するという特性があるそうです。そこが、私の『すげえ』と思ったところです。

三つ目の『すげえ』所は、クヌギ林の循環とため池がもたらす水の循環が連携して生まれる農林水産の輪です。クヌギ林やため池の循環システムがあるからこそ、多様な生態系やすばらしい景観、受けつがれる農耕文化、乾シイタケやお米などの農林水産物ができるそうです。私はその努力の結晶を『すげえ』と思いました。

四つ目の『すげえ』所は、森林農法です。森林農法とは、収穫期が異なる様々な作物を植えた森のような農地をつくり、病害による共倒れを防ぐ手法だそうです。だけど、私は森林農法は国東半島宇佐地域にもあると思います。クヌギの木で栽培するシイタケは、森林農法で作られたシイタケだと思うからです。クヌギの木を切ってシイタケを作り、そのクヌギの切り株から萌芽する。そしてまた、同じようにくり返す。私は、それも立派な森林農法だと思いました。私はその森林農法が国東半島宇佐地域にあることが『すげえ』と思いました。

私は最初『世界農業遺産』に認定された所が全然わからなかったけど、国東半島宇佐地域には『すげえ』所がたくさんあるとわかりました。私は、これからもずっと国東半島宇佐地域の『すげえ』所を守っていきたいです。

○入 選 「ふるさと大田」

杵築市立大田小学校 6年 河野朱里

私は大田がいいところだと思います。山が多いし、昔からある伝統的な祭りがずっと継続されているからです。それから、農業している人がたくさんいます。米やシイタケ、ぶどう、自分の家で食べる野菜などを作っています。

山には、動物、生き物がたくさんいます。私は、夏にカブトムシ、クワガタを見つけました。保育園に行っていたときには、イノシシの後ろからウリボウがついていっている様子を見ました。川にはホタルがいます。見に行くときむこうの対岸の方までチカチカ光っていました。

伝統的な祭り・どぶろく祭りは千三百年以上前から続いてあります。大分県でも有名な祭りです。当日の十月十七、十八日は、大勢の参拝客でにぎわいます。大田の町が十六倍にもふくらみます。

私の住んでいる近くの方は、米もシイタケも栽培しています。米は家から見えるところで、シイタケは山でしています。その山に行くとシイタケがたくさんついていました。

私は、先日「木が食料を産む」を読みました。その中に、ため池がたくさんあると書いていました。林先生が「どのくらいあると思うかな?」と言っていました。私の予想は「百あったらすごいんじゃないかなあ」でした。読むと約千二百箇所と書いてありました。「こんなに!」とおどろきました。私は二つ見た事があります。でも、もっとたくさんあるので、これから見つけていきたいです。

クヌギ林やため池は私達に豊かな農林水産物、すばらしい景観、田畑の豊作を神様にお祈りする独特なお祭りなどの農耕文化、多様な生き物をもたらししてくれるそうです。これからは、クヌギを育てている人やため池を作ってくれた人がいたからあるものです。山に関係する仕事をしている人のおかげです。クニ君やサキちゃんが言っていた「クヌギ林が食べ物を産む」や「ため池も文化を産む」は、そういうことなんだと思いました。

これから私は、毎年、どぶろく祭りに行き、お祭りの様子を見たいと思いました。クヌギが自然のじゅん環に大切な役割を果たしていることも初めて知りました。私は、自分の家の近くにあるクヌギを探してみたいと思います。大田には、山がたくさんあるので、きっとクヌギ林もあると思っていました。すばらしい景観や伝統のある祭りなどをくわしく調べてみたいです。

私は、大田が好きです。おいしい空気や緑の多い地域が私は落ち着きます。自然を守って生活していきたいです。今、大田の人たちががしているクヌギ林を維持していくこと、農業をしていくことは自然を守ることなんだと分かりました。これからも、この大田の景観を守りながら生活していけると良いです。